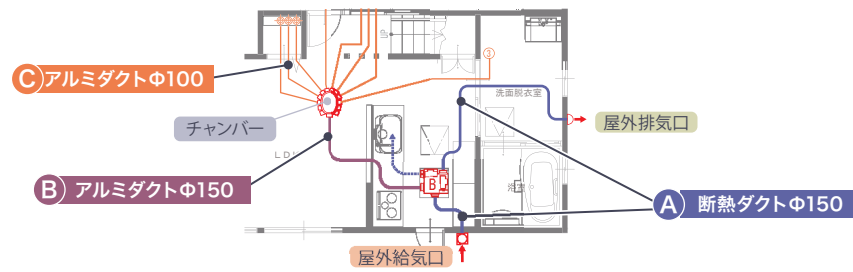


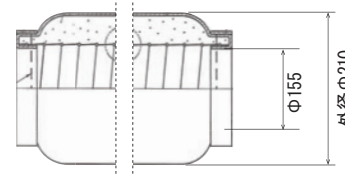
6.ダクト配管

➡ ダクト使用箇所



A 断熱ダクトφ150

本体 ➡ 屋外給気口
➡ 屋外排気口

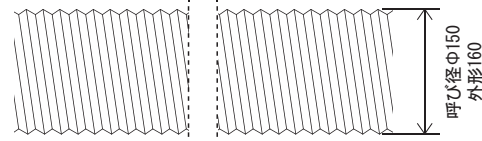


B アルミダクトφ150

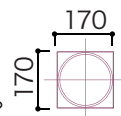
本体

↓

チャンバー



オプション エコエアースystem(空気循環)を設置する場合は、屋根裏から床下までアルミダクトφ150のパイプスペースが必要です。

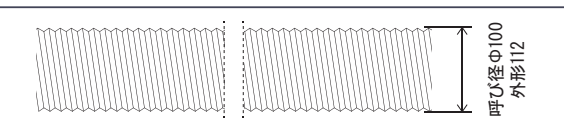


C アルミダクトφ100

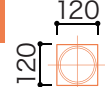
チャンバー

↓

各排気口



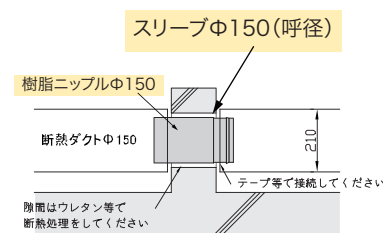
パイプスペース必要寸法
有効120mm以上



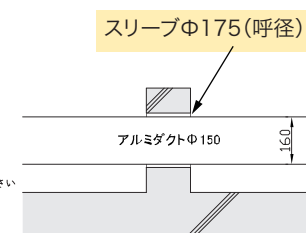
計画的にスリーブを設けることで、人通口へ通すダクト数を減らせます

人通口を通らずにダクトを通す場合の例

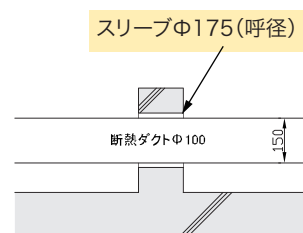
A 断熱ダクトφ150



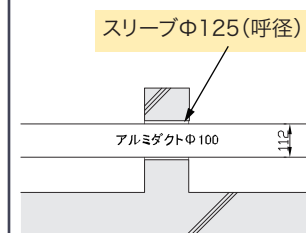
B アルミダクトφ150



断熱ダクトφ100



C アルミダクトφ100



✗ VP管は不可

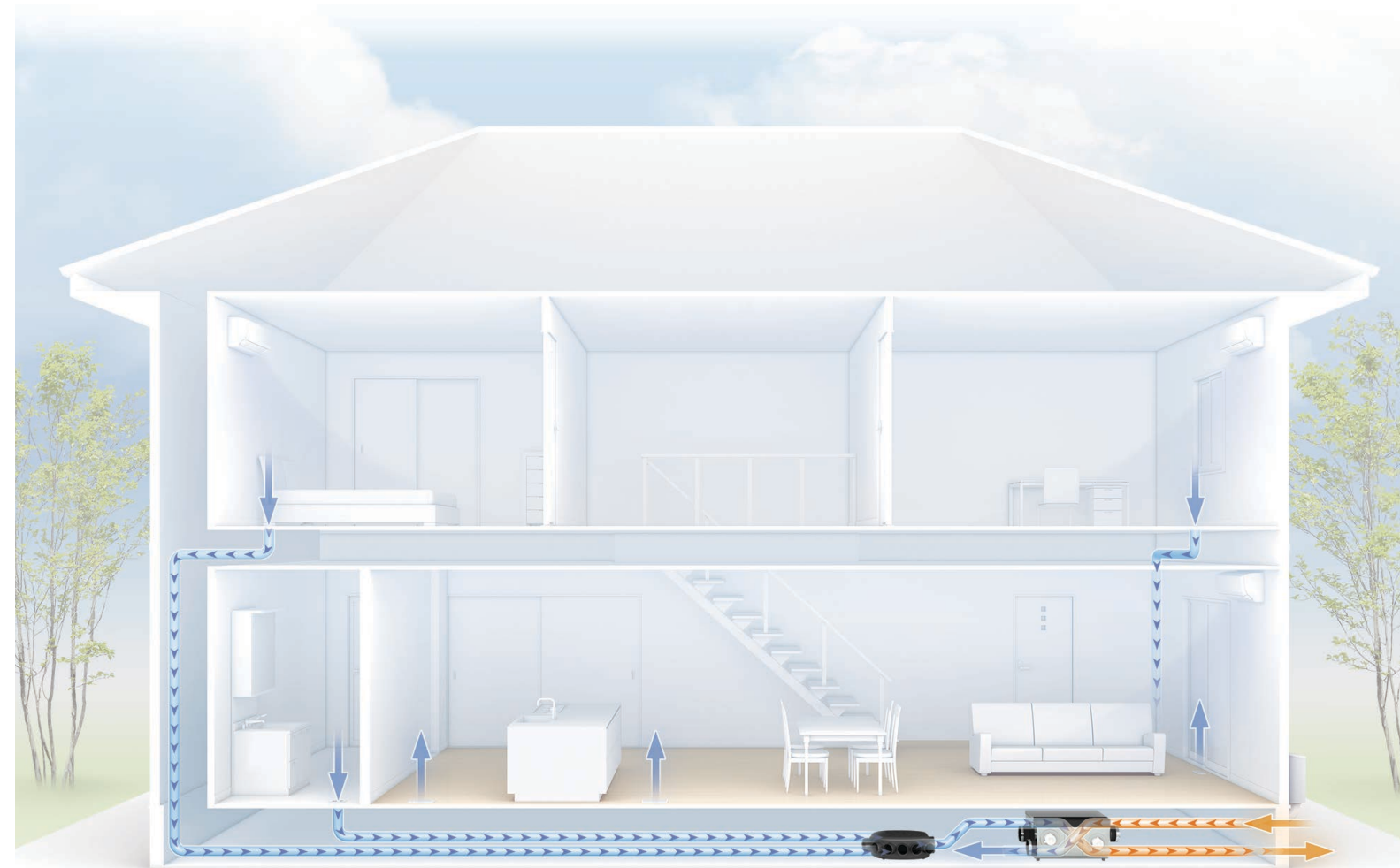
※最終的に貫通させるスリーブ径や補強筋については、工務店様でご判断の上施工ください。

澄家VS 施工準備マニュアル

s u m i k a
澄 家

澄家VS90/澄家VS80

1.施工時の注意点	P.1
2.基礎スリーブ	P.2
3.気密パッキン	P.3
4.基礎断熱	P.4
5.澄家(本体)設置	P.5-6
6.ダクト配管	P.7



MAHBEX

1.施工時の注意点

水を基礎内に入れない



雨水対策 施工時からしっかり養生

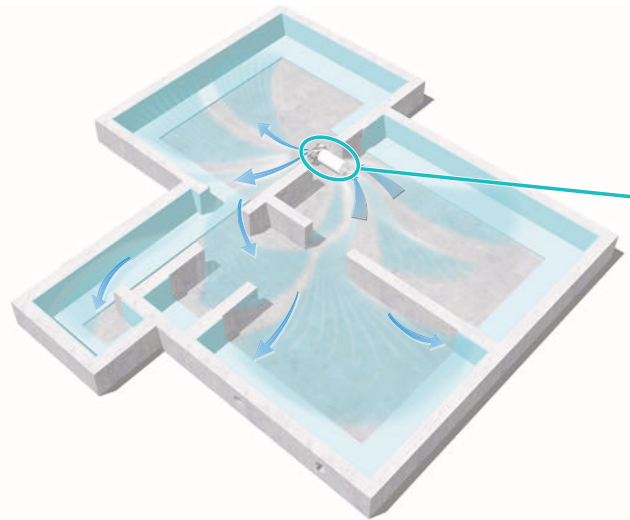
浸水防止 打継部・水抜き穴処理

水が入った場合 水をしっかり掻き出した後、ファンで通風し乾燥

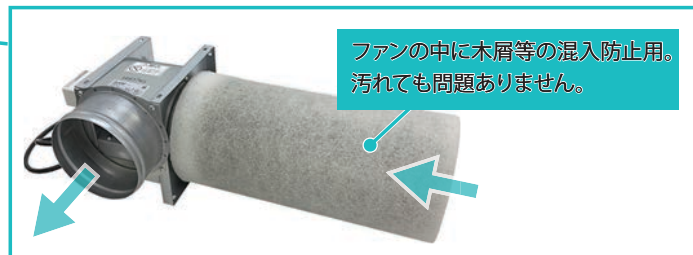


- ・基礎内を乾燥状態にしないと**カビの原因**になります。
- ・アルミダクトは、水が溜まった土間に触れると、アルカリ反応で腐食します。施工中など水に触れる恐れがある場合、ダクトは必ず吊ってください。

施工中に水分を排出



打設から1年程度は、コンクリートの大量の水分が蒸発します。カビ対策には、施工中から風を送ることで、湿気を外に逃がすことが有効な手段になります。



施工中に風を送る「床下通風用送風ファン」もマーベックスでご購入いただけます。

本体設置は床合板を貼る前に



換気システムの設置は、土台敷き、設備配管終了後、床合板を貼る前にしてください。
※雨の影響などで本体の設置が遅れる場合は、床合板で固定しないでください。
床下に潜っての作業は大変です。

施工中のダクトは仮で塞ぐ



室内排気口の設置まではホコリや木屑などが入らないように養生テープなどで塞いでおいてください。
※室内排気口設置はフローリングを貼った後です。

施工中の開口部は仮で塞ぐ



給気フィルター・排気口の設置までは小動物や雨水が入らないように養生テープなどで塞いでおいてください。
※フィルター設置は足場が外れた後です。

2.基礎スリーブ

基礎の配筋時に『給気用』と『排気口』のスリーブVU管φ150のスリーブを仕込んでおきます。

■基礎スリーブ



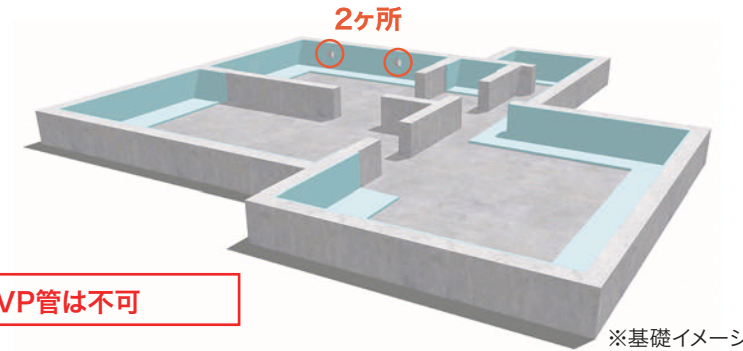
VU管

呼び径150φ
(外形165・内径154)

ボイド管

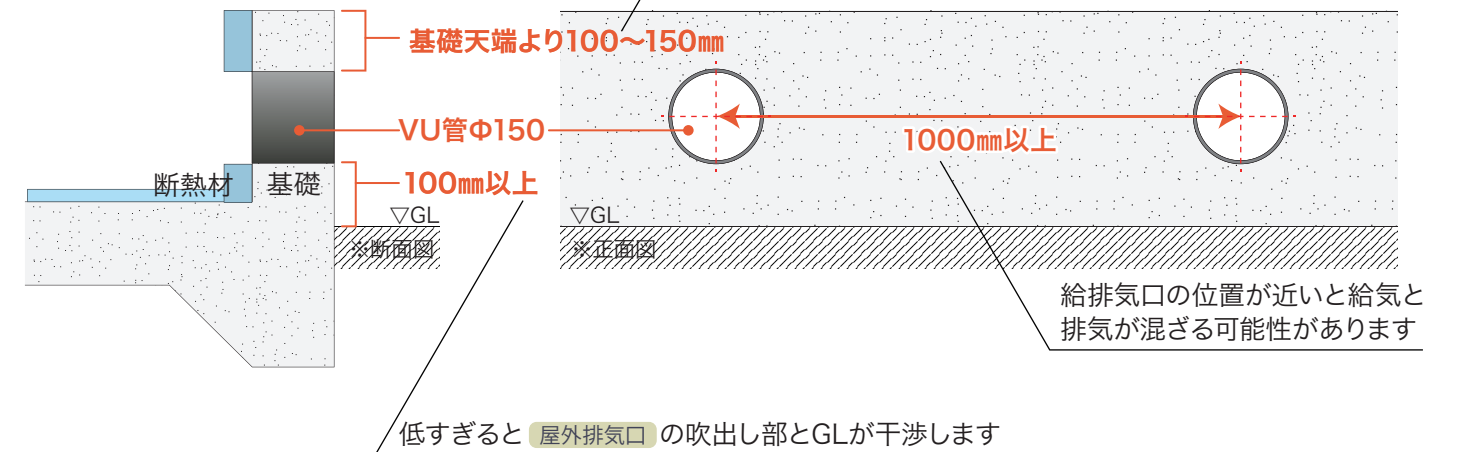
外形157・内径150φ

× 150φコア・VP管は不可



設置位置

低すぎると 屋外給気口 のフィルターカバーが外壁の水切に干渉します



■仕上がり写真

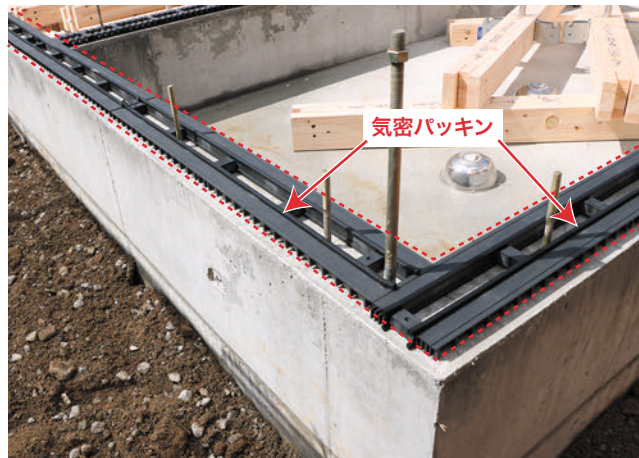


開口部の養生

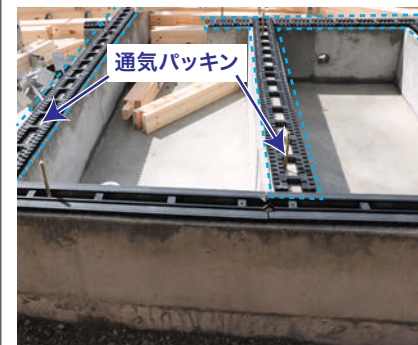
3.気密パッキン

外周部は気密パッキン

基礎の外周部は通気タイプの基礎パッキンは厳禁です。必ず**気密パッキン**を必ず使用してください。

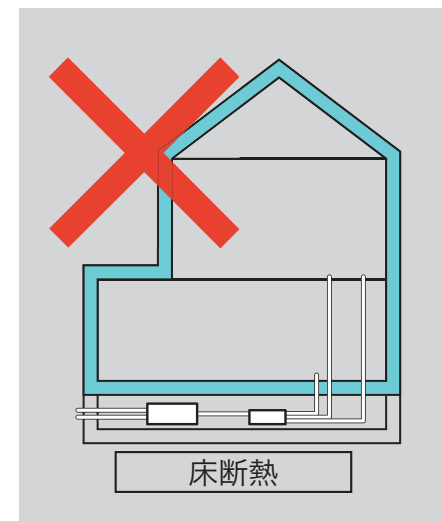
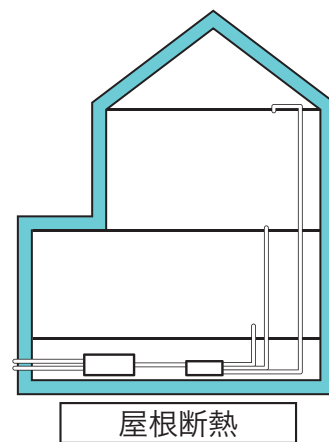
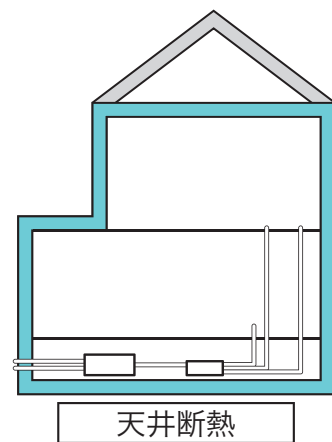


基礎の外周部以外は**通気パッキン**を推奨しています。



本体及びダクトなどは断熱ラインの内側に設置

断熱ラインの外側に設置すると結露の原因になります。



気密性能を高める

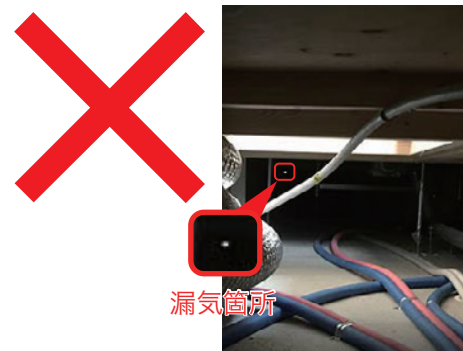
隙間があると計画換気されないだけでなく、すきま風が寒い、断熱性能の低下する、壁体内結露の発生などの原因になります。
気密性能を確認するためには、実際に測定する必要があります。



マーベックスでは
気密測定も行っております。
お気軽にご用命ください。



基礎外周部はウレタン等で隙間が無いように塞ぐ。



漏気箇所

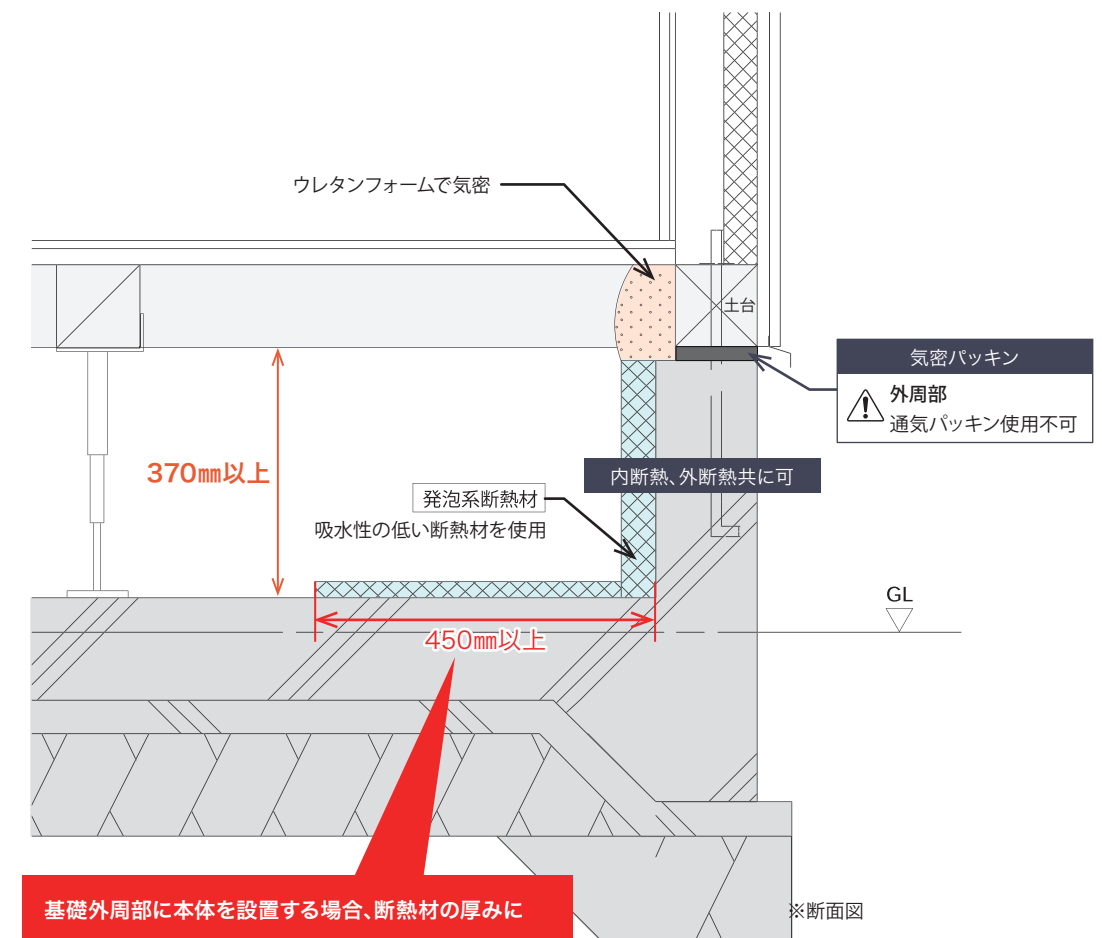
4.基礎断熱

- ベタ基礎構造としてください。
- 土台と基礎の間は、気密パッキンで気密化を図ります。
- 外周部の室内側に発泡系断熱材を基礎打ち込み時に入れるか、後張りします。
- 水平方向にも巾450mm以上で断熱補強します。雨水等でぬれる場合には吸水性の低い断熱材を使用し、基礎と発泡系断熱材の間に隙間が生じないように注意してください。

基礎断面図 (仕様例)



防腐防蟻処理を行う場合は、
安全に考慮した工法・材料を選択ください



基礎外周部に本体を設置する場合、断熱材の厚みによっては設置出来ないことがあります。その場合は断熱材を切り欠いて設置してください。



注意

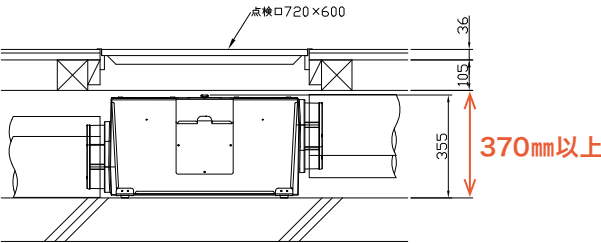
- 基礎外周部には土台下の通気パッキン材や床下通気口は使用しないでください。
- 床下点検口等を設置し、定期的に床下空間の点検を実施できるようにしてください。
- 床下空間の空気は居住空間と同じになるため安全に配慮した工法材料を選択してください。

5.澄家(本体)設置

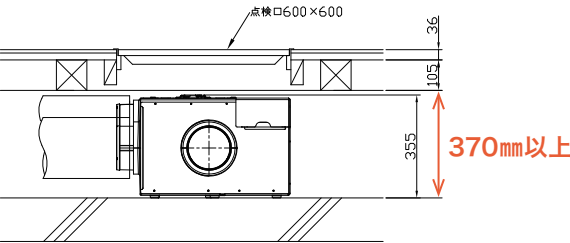
必要寸法

高さ

澄家VS90

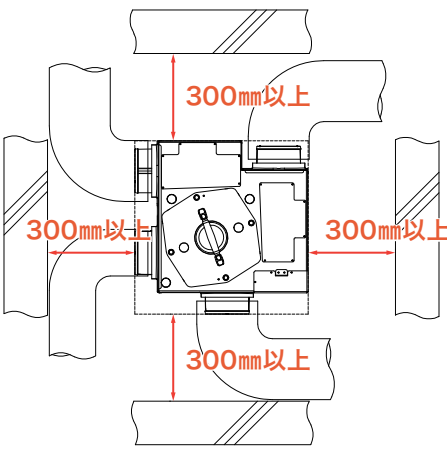
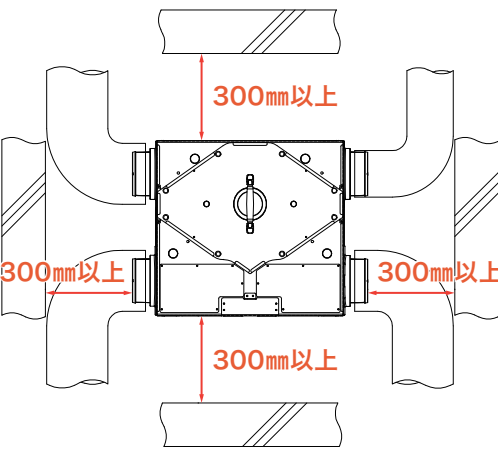


澄家VS80



スペース

本体の「基礎立上り」からの離れ



300mm未満になると、ダクトの取り回しや、内部部品取り換えなどのメンテナンスが行えなくなります。

設置方法

基礎直置き(固定はしないでください)

点検口

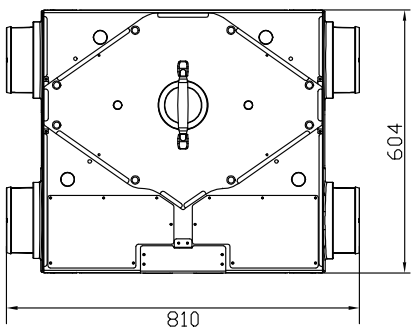
設置位置

本体の直上に設置

※規定サイズ以下の場合、熱交換素子を取り出せず工事が必要になります。
その場合の費用はお客様負担となりますので予めご了承ください。
※和室下に本体設置の場合、本体直上の合板を点検口として開閉できるようにしておいてください。

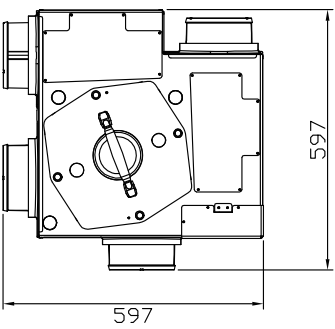
澄家VS90

熱交換率：90%



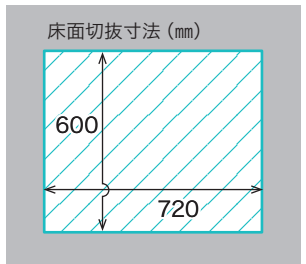
澄家VS80

熱交換率：80%



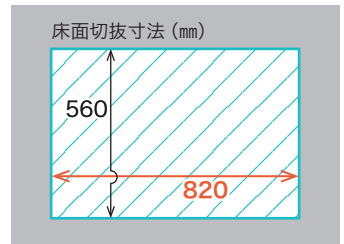
澄家VS90 用点検口

ホーム床点検口(アルミ材)



高気密型床下点検口(樹脂)

※本体交換の際は、点検口の枠を外す必要があります。



※大引きの内々で820mm以上必要です。

澄家VS80 用点検口

ホーム床点検口(アルミ材)

